

こよみ



コールセンターからの、小さなよみもの



2022年
4月

2022年4月28日

Vol
159

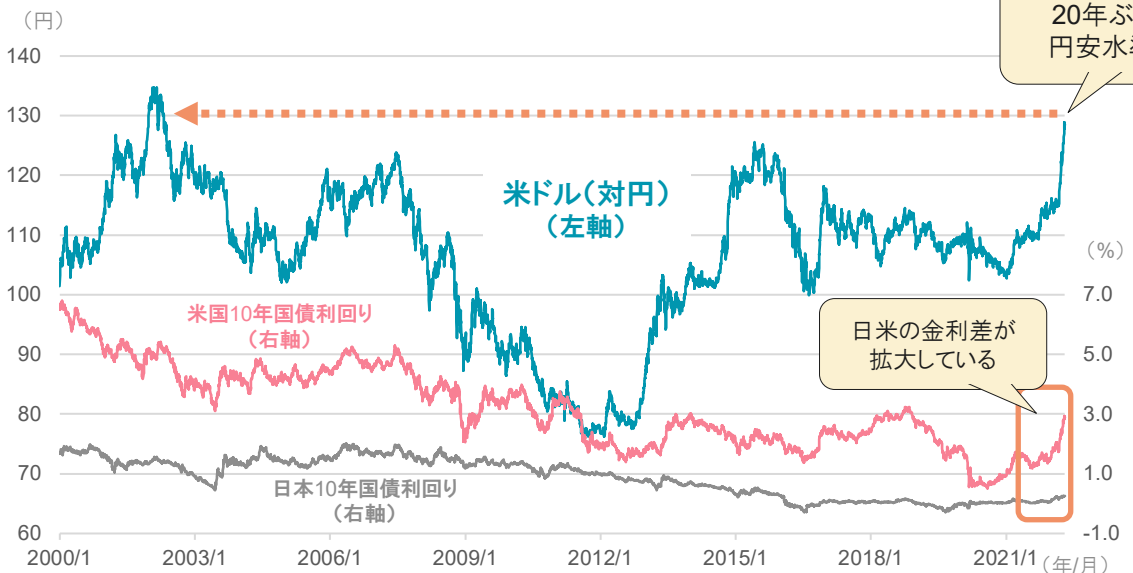
進行する円安だけを見た投資判断ってホントに正しい？

足元でマーケット参加者の大きな関心を集めているのが、為替の動向です。日本円は、対米ドルで大幅に下落し、4月20日には一時1ドル＝129円台半ばに突入するなど、2002年4月以来、20年ぶりの円安水準となっています。

相対的に金利が高い国の通貨が買われやすい傾向にある、と一般的に言われており、米国で長期金利が上昇し、日本との金利差が拡大したことが、足元でドルが買われている要因だと見られているようです。

コールセンターには、米国をはじめとする、海外資産に投資する投資信託を保有される方より、「だいぶ円安も進んだし、一旦売却しておくべきではないか」というご相談が増えています。今回は、あらためて投資信託の基準価額の算出の仕組みを整理したうえで、長期の資産形成で投資信託を活用する際の大事な視点についてお話ししたいと思います。

■米ドル(対円)と日米10年国債利回りの推移(期間:2000年1月初～2022年4月22日)



※信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成 ※上記は過去のものであり、将来を約束するものではありません。

■ 当資料は、日興アセットマネジメントが情報提供を目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解および図表等は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■ 投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。



こよみ

コールセンターからの、小さなよみもの



2022年
4月

基準価額の算出の仕組みから分かること

まず、押さえていただきたいのは、投資信託の基準価額の算出の仕組みです。下図を見ると、投資信託の基準価額は、分子である「投信の資産」が変動することで、上下することが分かります。

海外資産に投資を行なっている場合、「投信の資産」は、2つの要素(投資対象の有価証券と為替レート)の掛け算によって変動します。ですから、一要素である為替レートだけに着目して、投資判断をするというのは、やや早計です。為替レートだけでなく、投資対象の有価証券の動向にも注目する必要がありますからです。

少し視点を変え、「なぜその投資信託を買ったのか」という購入の目的を思い出してみてください。「円安になることを期待して」という方よりも、「投資対象の有価証券の将来性に期待して」という方が多いのではないのでしょうか。とすれば、むしろ注目すべきは、投資対象の有価証券の方だと言えるのです。

つまり、為替レートだけを見て投資判断をするのではなく、投資を行なっている有価証券が、これから上がるのかどうか、という視点で検証することが重要なのです。

■投資信託の基準価額の算出の仕組み



信託報酬率の1日分を
投信の資産に掛け算した
金額を日々徴収する。

基準価額 =
(一口あたりの価額)

全保有者の口数

※基準価額は、一般的に10,000を掛けて表示されています。



こよみ

コールセンターからの、小さなよみもの



2022年
4月

折に触れて、「なぜ、その投資信託を買おうと思ったのか」を思い出す

連日報道されるさまざまなニュースを受けて、日々上にも下にもマーケットは変動します。20年ぶりの円安と聞き、「高い、一旦売りだ」と投資判断をしてしまうのではなく、「投資対象の有価証券が引き続き魅力的か」を検証することが重要です。もし、投資先が変わらぬ魅力があるのであれば、今後の成長に期待し、じっくりと保有を続けることを検討してみてもはいかがでしょうか。

折に触れて、「なぜその投資信託を買おうと思ったのか」という、購入の目的を思い出すことが、長期の資産形成において投資信託を活用するための大事な視点だと言えます。



nikko am



コールセンター

0120-25-1404

営業時間 平日 9:00~17:00